

平成22年度

事業報告書

＜目 次＞

1	学校法人の概要	1～7
	(1) 建学の精神・教育目標	1
	(2) 学校法人の沿革	1～3
	① 設立年月日	1
	② 学校設置年月日	1
	③ 学園の沿革	2～3
	④ 学園組織表	3
	(3) 設置する学校・施設の位置	3～4
	(4) 学校・学科の学生数の状況	4～5
	① 入学定員・収容定員・現員数	4
	ア ヤマザキ学園大学	4
	イ ヤマザキ動物看護短期大学	4
	ウ ヤマザキ動物専門学校	4
	② 平成22年度中の入試状況（平成23年度入試）	4～5
	ア ヤマザキ学園大学	4
	イ ヤマザキ動物専門学校	5
	(5) 役員（理事・監事）の概要	5～6
	① 理事長・学長・校長の異動	5
	② 理事の異動	5
	③ 監事の異動	5
	④ 定員数・現員数・氏名等	5～6
	ア 理事	5
	イ 監事	6
	(6) 評議員の概要	6
	定員数・現員数等	6
	(7) 教職員の概要	6
	学校別専任・兼務教職員数	6
	(8) 教職員男女比率	7
2	事業の概要	7～11
	(1) 当該年度の主な事業の概要	7
	① 主な事業	7
	② 主な事業の進捗状況	7
	(2) 教育研究の概要	7～11
	① ヤマザキ学園大学	7～9
	ア 教育研究	7
	イ 学生支援	7～8

a	就職支援	7 ~ 8
b	奨学金の充実	8
c	被災学生緊急支援	8
ウ	国際交流	8
エ	社会貢献・地域連携活動	8 ~ 9
オ	学生募集	9
②	ヤマザキ動物看護短期大学	9 ~ 10
ア	教育研究	9
イ	学生支援	9
ウ	国際交流	9 ~ 10
エ	社会貢献・地域連携活動	10
③	ヤマザキ動物看護専門学校	10 ~ 11
ア	教育研究	10
イ	学生支援	10
ウ	国際交流	10
エ	社会貢献・地域連携活動	10 ~ 11
オ	学生募集	11
④	事務組織の改編	11
⑤	規程の見直し	11
3	財務の概要と経年変化	11 ~ 16
(1)	決算の概要	11 ~ 12
①	募金事業の推進	11
②	主な施設設備の整備事業	11
③	収支計算書の概要	12
ア	資金収支計算書	12
イ	消費収支計算書	12
④	貸借対照表の概要	12
(2)	財務状況の推移（経年比較）	12 ~ 16
①	収支計算書	12 ~ 15
ア	資金収支計算書	12 ~ 14
イ	消費収支計算書	14 ~ 15
②	貸借対照表	15 ~ 16
(3)	主な財務比率比較	16
(4)	借入金の状況	16

1 学校法人の概要

(1) 建学の精神・教育目標

昭和42年(1967年)の創立以来、創始者山崎良壽が掲げた、「生命(いのち)を生きる」という言葉をヤマザキ学園の建学の精神としています。その中に、「生命への尊敬の心を持つ」「動物愛護をとおして自分と社会を見つめる」「礼節や思いやりを大切にする」以上の3つの理念が含まれています。生きとし生けるものがともに尊重し、助け合い、それぞれの生命を輝かせて生きるという動物への深い愛情、人と動物の懸け橋になる人材育成を目標としています。動物愛護の精神に基づき、動物を心から理解し愛する卒業生が、社会で優れた指導者となり、調和のとれた平和な社会の建設に寄与することを理想としています。

また、本学は人間とコンパニオンアニマルの関係における新しい学術分野を確立し、理想的な教育と研究の場を提供することを目標としています。

(2) 学校法人の沿革

学校法人ヤマザキ学園は、我国で初めて、動物に関する学問を研究し、動物の看護や飼育の正しい技術を教育するための機関として、昭和42年(1967年)に歩みはじめました。平成6年(1994年)にはアニマル・ヘルス・テクニシャン(A T H)の専門性が、広く社会に認められ、国内では唯一の動物管理学科を設けた3年制専修学校として認可されました。平成16年(2004年)4月、創始者山崎良壽の夢を実現させ、「生命を生きる」という教育理念を継承して、新たに「ヤマザキ動物看護短期大学」が開学しました。平成21年(2009年3月)、より高度な専門知識を持つ人材の育成を目指し四年制大学の設置認可申請書を文部科学省に提出し、準備を進めてまいりましたが、平成21年10月文部科学大臣より「ヤマザキ学園大学」設置の認可を受けました。

① 設立年月日

名 称 学校法人 ヤマザキ学園
法人成立の年月日 平成6年6月27日

② 学校設置年月日

ヤマザキ動物専門学校 平成7年度開校
動物管理学科(現在は動物看護・美容学科、動物看護学科、
動物美容学科を増設)
ヤマザキ動物看護短期大学 平成16年度開学
動物看護学科

ヤマザキ学園大学 平成22年度開学
動物看護学部動物看護学科

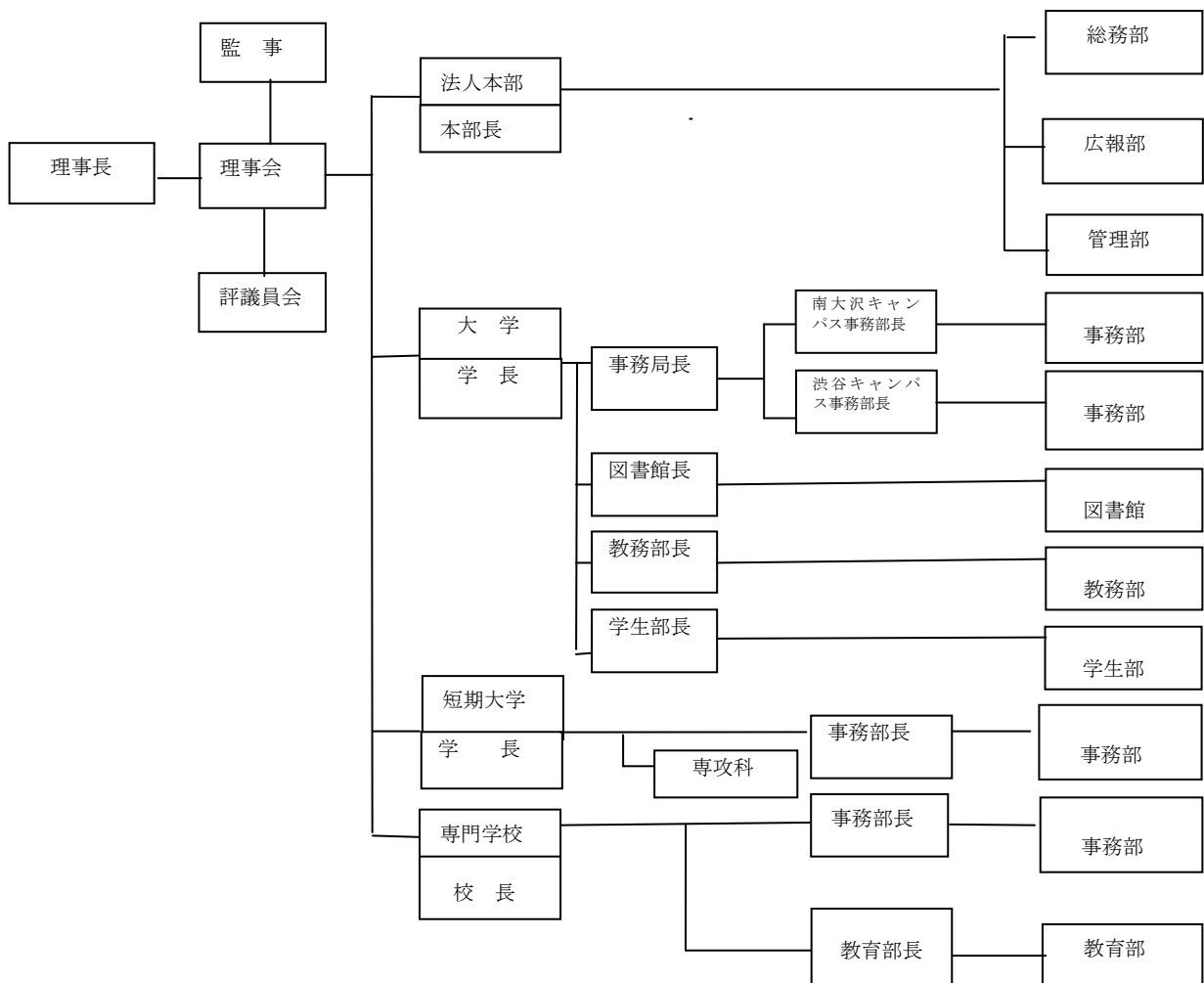
③ 学園の沿革

沿 革

- | | |
|----------|---|
| 昭和42年12月 | 創始者山崎良壽、渋谷区神泉町に世界初のイヌのスペシャリスト養成機関を創立 |
| 平成2年10月 | 創始者山崎良壽初代学長死去 |
| 平成3年2月 | 山崎薫第2代学長就任 |
| 平成6年6月 | 東京都知事認可により学校法人ヤマザキ学園設立
専修学校日本動物学院設置、山崎薫理事長就任 |
| 平成8年10月 | 創立30周年を機に、専門学校実習専用の神泉校舎新設 |
| 平成12年3月 | 渋谷区松涛に7階建専門学校本校舎新設 |
| 平成12年4月 | 専修学校日本動物学院を専門学校日本動物学院に校名変更 |
| 平成12年4月 | 専門学校日本動物学院の入学定員を320人、収容定員を960人に増 |
| 平成12年9月 | 群馬県富岡市にドッグトレーニング研修施設「グリーンフィールド」を設置 |
| 平成12年10月 | 渋谷区松涛にドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールド」を設置 |
| 平成12年10月 | 富ヶ谷校舎に「日本動物図書館」を開設 |
| 平成15年11月 | 文部科学大臣より、短期大学設置のため学校法人組織変更認可 |
| 平成15年11月 | 文部科学大臣より、ヤマザキ動物看護短期大学設置認可 |
| 平成16年4月 | ヤマザキ動物看護短期大学開学
動物看護学科（3年制入学定員100人）を設置 |
| 平成16年4月 | 専門学校日本動物学院をヤマザキ動物専門学校に校名変更 |
| 平成17年4月 | 渋谷区松涛に全天候ドッグトレーニング研修施設「レインボーフィールド」を設置 |
| 平成19年3月 | ヤマザキ動物看護短期大学第1回卒業式 |
| 平成19年4月 | ヤマザキ動物看護短期大学専攻科開設 |
| 平成19年4月 | ヤマザキ動物看護短期大学の入学定員を116名、収容定員を348名に定員増 |
| 平成21年3月 | ヤマザキ学園大学設置のための認可申請を文部科学大臣に提出
ヤマザキ動物専門学校動物管理学科入学定員を変更 |

- (160名)、動物看護学科(2年制、入学定員40名)を新設。
- 平成21年10月 文部科学大臣よりヤマザキ学園大学設置認可
- 平成22年3月 南大沢2号館完成
- 平成22年4月 ヤマザキ学園大学開学
- ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科(3年制、入学定員120名)及び動物美容学科(2年制、入学定員40名)を新設
- 平成22年10月 創始者山崎良壽先生逝去20周年偲ぶ会举行

④ 学園の組織表(平成22年5月現在)



(3) 設置する学校・施設の位置

① 本部及び校舎の位置

- 法人所在地 東京都渋谷区松濤2丁目3番10号
- ヤマザキ学園大学 南大沢キャンパス 東京都八王子市南大沢4丁目7番2号

渋谷1号館	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号 (ヤマザキ動物専門学校と一部共用)
渋谷2号館	東京都渋谷区富ヶ谷2丁目25番1号
ヤマザキ看護短期大学	東京都八王子市南大沢4丁目7番2号
ヤマザキ動物専門学校	
本校舎	東京都渋谷区松濤2丁目16番5号
松濤校舎	東京都渋谷区松濤2丁目3番10号 (ヤマザキ学園大学渋谷1号館の一部を共用)
神泉校舎	東京都渋谷区神泉町10丁目3番

(4) 学校・学科の学生数の状況

① 入学定員・収容定員・現員数 (平成22年5月1日現在)

ア ヤマザキ学園大学

学 部	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学部 動物看護学科	180	(720)	182	182

イ ヤマザキ動物看護短期大学 (動物看護学科は募集停止)

学 科	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護学科	(116)	(348)	0	265
専攻科動物看護学専攻	20	20	12	12
計	20	20	12	277

ウ ヤマザキ動物専門学校 (動物管理学科は募集停止)

学 校 名	入学定員	収容定員	学生数	
			入学者	在籍者
動物看護・美容学科	120	(360)	107	107
動物看護学科	40	80	27	32
動物美容学科	40	(80)	14	14
動物管理学科	(160)	(480)	0	277
計	200	(520)	147	430

② 平成22年度中の学生・生徒の入試状況 (平成23年度入試)

ア ヤマザキ学園大学

学部・学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護学部 動物看護学科	180	247	238	238	184

イ ヤマザキ動物専門学校

学科名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
動物看護・美容学科	120	104	101	101	95
動物看護学科	40	5	5	5	5
動物美容学科	40	4	4	4	4
計	200	113	110	110	104

(5) 役員（理事・監事）の概要

① 理事長・学長・校長等の異動

ヤマザキ学園大学開学に伴い、中村經紀理事（ヤマザキ動物看護短期大学名誉学長）が学長に就任。

山北宣久ヤマザキ動物専門学校校長の辞任に伴い、平成22年7月1日に関正勝校長が就任。

② 理事の異動

村松寿満子理事の任期満了による退任に伴い、4月1日に関正勝理事が就任。

③ 監事の異動

異動なし。

④ 定員数・現員数・氏名等（平成22年4月1現在）

ア 理事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・非常勤別	摘要
寄附行為 第6条第1項第1号 (学長・校長)	学長 校長	中村經紀 山北宣久	2名	2名	非常勤 非常勤	平成11年9月11日就任 平成11年9月11日就任
寄附行為 第6条第1項第2号 (評議員のうちから 評議員会が選任)	理事 理事	関正勝 堀江昭雄	2名	2名	非常勤 非常勤	平成22年4月1日就任 平成20年4月1日就任
寄附行為 第6条第1項第3号 (理事会が選任)	理事 理事 理事 理事	山崎 薫 山崎 緑 吉見充徳 古谷久子 齊藤公紀	5名	5名	常勤 常勤 非常勤 非常勤	平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成6年6月27日就任 平成11年9月11日就任 平成15年11月27日就任
合計			9名	9名		

イ 監事

選任区分	区分	氏名	定員	現員	常勤・ 非常勤別	摘 要
寄附行為第7条 (理事会が選出した候補 者から評議員会の同意 を得て理事長が選任)	監事 監事	大坪俊勝 玉木祥夫	2名	2名	非常勤 非常勤	平成18年7月1日就任 平成20年4月1日就任

(6) 評議員の概要

定員数・現員数等 (平成22年 4月1日現在)

選任区分	定員	現員
寄附行為 第23条第1項第1号 (法人の教職員)	1名	1名
寄附行為 第23条第1項第2号 (卒業生)	9名	9名
寄附行為 第22条第1項第3号 (理事会において選任した者)	9名	9名
合計	19名	19名

(7) 教職員の概要

学校別・専任兼任数 (平成22年4月1日現在)

(単位：人)

区 分	専任教員	兼任教員	職 員	派遣員等	合 計
ヤマザキ学園大学動物 看護学部動物看護学科	29 (教育 助手含む)	6	24	2	61
ヤマザキ動物看護短期 大学 動物看護学科	12 (教育 助手含む)	14	0	2	28
ヤマザキ動物看護短期 大学 専攻科動物看護 学専攻	0	1	0	0	1
ヤマザキ動物専門学校	27	38	11	1	77
法人本部	0	0	24	2	26
計	68	59	59	7	193

(8) 教職員男女比率

区 分	男性	女性	合 計
専任教職員	30	97	127
非常勤教員	28	38	66
合 計	58	135	193
比 率	30%	70%	100%

2 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

① 主な事業

今年度は、ヤマザキ学園大学開学初年度の記念すべき年にあたります。ヤマザキ学園100年の計を実現するための一步を踏み出しました。年度末の時期に未曾有の災害の中で社会情勢が先の見えない状況にあります。これを変革の好機ととらえ、高まる教育の質的向上への要求に応えるために、全学園を挙げて取り組みました。こうした状況をふまえ以下に示す諸事業を展開しました。

② 主な事業の進捗状況

動物看護の分野における高度な知識・技術を修得するとともに他の専門職と連携する能力を身につけ、指導的役割を果たすことができる人材を育成することを目的として、動物看護学部動物看護学科を開学しました。

(2) 教育研究の概要

① ヤマザキ学園大学

ア 教育研究

ヤマザキ学園大学（以下「大学」という。）は、動物愛護の精神に則り、日本ではじめて動物看護の大学として開学しました。大学における中心的な研究分野の推進に関しては、完成年度までに段階的に実施していくこととしており、平成22年度においては①動物臨床看護の実践的能力向上に関する研究②コンパニオンアニマルにおける食の安全と栄養学的研究③コンパニオンアニマルに関する遺伝性疾患予防に関する研究を中心に実施しました。また、教育研究の分野での成果は、紀要『ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌』第1号により公開されていますのでご参照ください。

イ 学生支援

a 就職支援

大学の入学者確保という入口も大切ですが、入学後に学生をいかに育て、伸ばしていけるのかという出口も重要です。正課の学修と

ともに学生生活支援のすべてをキャリア形成サポートと捉え、本学は独自の制度としてクラスアドバイザー制度を採用し、学生1人ひとりにきめ細かい指導対応をしています。学生達の悩みや問題に対して、専門カウンセラーが対応するほか、クラスアドバイザーが学生生活全般にわたって暖かな助言・指導を行なっておりキャリア支援の充実を図っています。

b 奨学金の充実

本学の奨学金制度は、学生の人材育成を目的とする山崎良寿記念奨学金制度があります。

また、日本学生支援機構、地方自治体などの奨学金を受けることができます。今年度は、株式会社ジャックスとの提携により、融資の紹介ができるようになりました。

c 被災学生緊急支援

今般の未曾有の災害の被害を受け就学困難な平成23年度新入生を支援するため、入学金及び平成23年度学費を免除するほか、女子寮の提供などを行うことになりました。また、4月中の入学も認めることとしました。日本の総力を上げて復興に取り組む中、このたびの新入生がそこで活躍する人材となることを強く祈念します。

ウ 国際交流

正課の授業のほかに課外活動の充実に力をいれています。その一環として海外研修があります。1971年以来の伝統行事として、アメリカ、オーストラリアなどで研修を行ってきました。22年度は大学・短期大学・専門学校の学生が参加し10日間にわたり総勢124名がオーストラリア海外研修へ行ってきました。シドニー、ゴールドコーストの2都市において、シドニー大学やシーワールドでのセミナーをはじめとして、盲導犬協会訪問、オールブリッドドックショーやローンパイン・コアラ・サンクチュアリー見学など、5つの特別セミナーを受講致しました。参加者全員が体調を崩すこともなく、無事終了しました。豊富な関連提携先をもつ本学園ならでの貴重な体験は有意義であったと思われまます。

エ 社会貢献・地域連携活動

動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に学園として参加しました。屋内行事としては、東京国立博物館において、本学准教授である小方宗次先生の基調講演をはじめパネルディスカッション等も行われ学生たちにとって改めて「生命」について考える機会になりました。また、屋外行事として上野恩賜公園において本学ブースを設置し、スタンプラリー等のイベントに参加しました。

八王子学園都市いちよう塾にて、本学二宮博義教授が「キリンの生物学 高血圧のキリンがなぜ脳溢血にならないか」の演題にて講演を行いました。

また、2月に開催された「第61回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」に本学駅伝チーム5名が大学男子の部に参加し、無事完走を果たし健闘しました。

オ 学生募集

これまでの学生募集活動の検証を踏まえて、教職員が連携して取り組みを強化しました。本学の特色のある教育の目標をいかにして説明しうるか、高校ガイダンスやオープンキャンパスをはじめとして直接に高校生に接する機会を増やし、あくまでもマンツーマンの広報を重視してきました。

② ヤマザキ動物看護短期大学

ア 教育研究

本学の特徴として卒業までの実習科目の取得単位が多い、これは動物看護の職業人として、卒業後すぐ動物関連の職場で活躍できるように、1年次から実習科目の履修が組まれているからです。今年度もオムニバス授業を実施し、実習においては複数のスタッフにより強力サポートを行いました。また、教育研究の分野での成果は、紀要『ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌』第1号により公開されていますのでご参照ください。

イ 学生支援

本学は独自の制度として学年主任、クラスアドバイザー、アシスタントアドバイザー制を導入しています。学生達の悩みや問題に対して、専門カウンセラーが対応するほか、アドバイザーたちは、学生生活全般に涉って助言・指導を行います。特に学生達と歳の近いアシスタントアドバイザーは、1人暮らしの学生達が気軽に相談できるようになっています。

短期大学の就職活動には、創立以来40周年にわたる専門学校の全国におよぶ就職ネットワークを最大限に活用しています。就職支援課は、学生が社会人として自立できる職業に従事するために相談に応じています。各学年において「就職セミナー」を開催しており、学生1人ひとりの希望に応じた指導を、キャリアを積まれた先生が個人指導にあたっております。今年度は、就職希望者に対して96%の就職率となっています。

ウ 国際交流

学園の伝統行事として1971年以来、アメリカ、オーストラリアなどで研修を行ってきました。22年度は、8月25日から9月3日までの10日間、大学・専門学校の学生も参加し総勢124名がオーストラリア海外研修に行ってきました。シドニー・ゴールドコース

トの2都市にて、シドニー大学やシーワールドでのセミナーをはじめとして、盲導犬協会の施設見学・オールブリードドッグショーの見学など、5つの特別セミナー等を受講し、国際的な検分をひろげています。

エ 社会貢献・地域連携活動

今年度も八王子学園都市大学いちよう塾に参加しました。これは、「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域23大学・短期大学・高等専門学校、企業及び市民の方との協働により、市民が意欲をもって学ぶことができる機会の場の提供を目的として2004年9月に設立された、市民のための市民大学です。今年度は公開講座として、「動物医療の実態-知っているようで知らない動物医療について内服薬の調剤を中心に分かりやすく解説します」の講演を本学の谷口明子准教授が行いました。

また、2月に開催された「第61回全関東八王子夢街道駅伝競走大会」に本学駅伝チーム4名が大学男子の部に参加し、無事完走を果たし健闘しました。

③ ヤマザキ動物専門学校

ア 教育研究

校内で行われている授業のほかに、社会の一線で活躍している文化人や専門家によるセミナー授業、獣医大学や動物園でのエクスターン授業、文化祭やスポーツデーなどの学校行事をとおして、実際の現場での即戦力として活躍できる「総合力」を育成しています。

イ 学生支援

本学では、就職内定までのプロセスとして、1年生から就職活動に備えたカリキュラムを準備しています。また、インターン研修では併設の動物病院とグルーミングサロンを実際に体験し、3年生では実社会における研修を実施しています。その結果本年度は、就職希望者の内95パーセントの高い就職率を実現しました。

ウ 国際交流

10日間にわたり総勢124名がオーストラリア海外研修へ行ってきました。シドニー、ゴールドコーストの2都市において、シドニー大学やシーワールドでのセミナーをはじめとして、盲導犬協会訪問、オールブリードドッグショーやローンパイン・コアラ・サンクチュアリー見学など、5つの特別セミナーを受講致しました。参加者全員が体調を崩すこともなく、無事終了しました。

エ 社会貢献・地域連携活動

動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に学園として参加しました。上野恩賜公園において行われた屋外行事には、専門学校のグルーミングの先生による実演も行

われ学園のブースには多くの方が来場されました。動物看護の地位向上や動物福祉活動の一環として松涛校舎においてイヌやネコに対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」に参加しています。

オ 学生募集

本校をこれまで以上に知っていただくために、年間を通して様々なイベントを開催したことなど、四年制大学への進学志向のなかで本学の特色をアピールしてきましたが、昨今の受験生年代が減少している状況下では定員の充足は難しくなっています。本校としては大学と連携し募集活動をおこなうことにより専門学校のイメージアップを図ってきました。大学の学生募集にありますように、オープンキャンパスをはじめとして直接高校生に接する機会を増やし、あくまでもマンツーマンの広報を重視してきました。そこで、推薦指定校の重点校と密接な関係を持ち、より一層の信頼関係を確立するよう努力しました。

④ 事務組織の改編

事務組織の効率化を目指して事務組織の改編を行いました。

⑤ 規程の見直し

教育目標達成へ向け、改組の一環として、各規程の実務的な検討をしました。

3 財務の概要と経年変化

(1) 決算の概要

平成22年度決算は、四年制大学設置に関わる事業が2年目ということもあり事業に掛かる経費は減少しております。また、一般の経費は削減をはかりながら予算執行を行いました。収入面におきましては、学生数の減少に伴い学生生徒納付金収入が減少しております。大学の学生募集につきましては、入学定員を確保いたしました。今後の大学の年次進行に伴い収支は安定してくるものと予想されます。

① 募金事業の推進

教育研究環境のより一層の充実を図るため募金事業を行いました。学園関係者各位より約1100万円の浄財をご寄付いただきました。深く感謝申し上げます。

② 主たる施設設備の整備事業

主な整備事業は次のとおりです。

ア 南大沢キャンパス2号館に実験台24台等、校具、教具、備品の整備を行いました。

イ 南大沢キャンパス2号館に学生食堂の厨房機器及びテーブル等の整備を行いました。

ウ 導入から5年以上経過したため、専門学校・本校舎コンピュータ

一実習室にPC30台等の整備を行いました。

③ 収支計算書の概要

ア 資金収支計算書

平成22年度の資金収支計算書は、資金収入の合計が前年度繰越支払資金22億4千万円を含め35億8千万円となり、資金支出の合計が15億6千万円(前年度比8億5千万円の減)で、次年度繰越支払資金が20億2千万円となりました。今年度は四年制大学設置に関連し、工事費2千万円、機器備品費8千万円の支出がありました。

イ 消費収支計算書

平成22年度の消費収支計算書は、帰属収入の合計が14億1千万円(前年度比4千万円の減)となり、基本金を2億5千万円組み入れたことにより消費収入は11億6千万円となりました。消費支出は合計が14億9千万円(前年度比1億4千万円増)で、今年度は3億3千万円(前年度比1億5千万円の増)の消費支出の超過となりましたが、翌年度の繰越消費収支差額は約2千万円の収入の超過として維持いたしました。本年度における消費支出の超過の要因は、学生生徒等納付金の減少と減価償却費の増加によります。

④ 貸借対照表の概要

平成22年度の貸借対照表は、資産総額が110億円となりました。前年度と比較すると2億8千万円減少しています。一方負債総額は、7億5千万円で、前年度より2億円減少しています。

(2) 財務状況の推移(経年比較)

① 収支計算書

ア 資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
学生生徒等納付金収入	2,151,873	1,963,893	1,746,492	1,397,603	1,356,498
手数料収入	18,320	13,417	10,233	11,627	10,902
寄付金収入	0	3,610	2,480	1,770	13,410

補助金収入	0	0	27,168	28,466	16,932
資産運用収入	944	4,212	11,595	9,655	6,127
資産売却収入	0	501,422	600,000	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	4,978	1,281	607	1,414	914
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,092,715	970,615	754,586	730,075	662,155
その他の収入	24,433	101,868	869	901,038	405
資金収入調整勘定	△1,220,881	△1,093,235	△970,615	△755,946	△731,899
前年度繰越支払資金	2,113,273	1,625,591	1,457,335	2,324,466	2,244,186
収入の部合計	4,185,655	4,092,674	3,640,750	4,650,168	3,579,630

支出の部	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
人件費支出	549,153	624,694	610,342	620,390	633,479
教育研究経費支出	245,417	306,264	232,765	270,430	287,540
管理経費支出	360,817	381,326	327,112	320,129	376,969
借入金等利息支出	3,976	3,307	1,149	0	0
借入金等返済支出	54,000	54,000	112,600	0	0
施設関係支出	682,071	754,675	19,012	1,158,607	25,484
設備関係支出	158,506	10,474	8,924	159,370	103,274
資産運用支出	500,000	500,000	0	0	0

その他の支出	59,258	50,186	50,292	50,628	175,256
資金支出調整勘定	△53,134	△49,587	△45,912	△173,572	△37,451
次年度繰越支払資金	1,625,591	1,457,335	2,324,466	2,244,186	2,015,079
支出の部合計	4,185,655	4,092,674	3,640,750	4,650,168	3,579,630

イ 消費収支計算書

(単位:千円)

収入の部	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
学生生徒等納付金	2,151,873	1,963,893	1,746,492	1,397,603	1,356,498
手数料	18,320	13,417	10,233	11,627	10,902
寄付金	0	3,610	10,884	1,770	15,546
補助金収入	0	0	27,168	28,466	16,932
資産運用収入	944	4,212	11,595	9,655	6,127
資産売却差額	0	242,916	170,943	0	0
事業収入	0	0	0	0	0
雑収入	5,062	1,281	607	1,414	914
帰属収入合計	2,176,199	2,229,329	1,977,922	1,450,535	1,406,919
基本金組入額合計	△1,394,996	△1,151,592	△34,336	△282,327	△251,303
消費収入の部合計	781,203	1,077,737	1,943,586	1,168,208	1,155,616

支出の部	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
------	------	------	------	------	-----

人件費	552,829	622,304	615,561	625,629	641,271
教育研究経費	377,218	464,954	390,133	389,079	452,692
管理経費	370,047	392,768	337,387	331,219	392,190
借入金等利息	3,976	3,307	1,149	0	0
資産処分差額	0	0	2,620	4,016	0
徴収不能引当金繰入額	0	20,325	0	1,360	1,824
消費支出の部合計	1,304,070	1,503,658	1,346,850	1,351,303	1,487,977
当年度消費収支超過額	△522,867	△425,921	596,736	△183,095	△332,361
前年度繰越消費収支超過額	373,542	△149,325	△384,297	531,102	348,007
基本金取崩額	0	190,949	318,663	0	0
翌年度繰越消費収支超過額	△149,325	△384,297	531,102	348,007	15,646

② 貸借対照表

(単位:千円)

	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
固定資産	8,569,259	9,287,052	8,722,974	9,009,630	8,957,985
流動資産	1,628,933	1,458,690	2,325,801	2,246,907	2,019,721
資産の部合計	10,198,192	10,745,742	11,048,775	11,256,537	10,977,706
固定負債	130,662	74,273	20,892	26,131	33,923
流動負債	1,218,022	1,096,290	821,633	924,924	719,360
負債の部合計	1,348,684	1,170,563	842,525	951,055	753,283
基本金の部合計	8,998,833	9,959,476	9,675,148	9,957,475	10,208,777

消費収支差額の部合計	△149,325	△384,297	531,102	348,007	15,646
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	10,198,192	10,745,742	11,048,775	11,256,537	10,977,706

(3) 主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	算式	18年度	19年度	20年度	21年度	本年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	40.1	32.6	31.9	6.84	-5.7
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	166.9	139.5	68.1	115.7	128.8
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒納付金}}{\text{帰属収入}}$	98.9	88.1	88.3	96.4	96.4
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	25.4	27.9	31.1	43.1	45.6
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	17.3	20.9	19.7	26.8	32.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	17.0	17.6	17.1	22.8	27.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	158.4	133.1	283.1	242.9	280.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金※1}}$	15.2	12.2	8.3	9.2	7.4
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金※2}}$	86.8	89.1	92.4	91.6	93.1
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	98.2	90.8	100.0	98.8	99.9

※1 自己資金＝基本金＋消費収支差額

※2 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額

(4) 借入金の状況

平成22年度は該当事項ありません。